

＼ 冷え込みによる /

ガス給湯器の凍結予防方法

この時期、特に気温の下がる夜間や早朝時は、凍結による給湯器のトラブルが多発します。ガス給湯器の凍結予防方法等についてお知らせいたしますので、冬場の凍結対策としてお役立てください。

予防
1

凍結予防ヒーター

- 1 電源プラグがコンセントに差し込まれていることを確認します。凍結予防ヒーターや、循環ポンプが自動的に動作します。

予防
2

蛇口から水を流す

- 1 ガス給湯器のリモコンをオフにする。
- 2 給湯栓を開き、少量の水を流した状態しておく。
※流す水の量は、1分間に400cc程度を目安に。
※リモコンがない場合、流す水の量が少量でないとガスを消費してお湯になる可能性があるため、水が出ていることを確認してください。

さらに

追い焚き付き給湯器の場合は浴槽に水を貯める

- 1 追い焚き付き給湯器の場合は、浴槽に水を貯めておく。循環金具より上に水を貯めておくことで、外気温を感知して自動でポンプが動き水の流れて凍結予防します。
※リモコンの電源がオフの状態でも作動します。

ガス給湯器の給水・給湯配管に、保温材などの凍結を防止する措置が取られていない場合、風の強い日などでは気温が氷点下にならなくても、配管内が凍結してお湯が出なくなるおそれがあります。保温材で巻くなど凍結防止の対策が必要です。

ご自宅の電気が止まっている場合は給湯器の凍結予防ヒーターが動きません。その際は給湯器本体の水抜きが必要になります。水抜き方法は使用している給湯器の種類によって異なる場合があるので、取り扱い説明書をご確認ください。

もし給湯器が凍結してしまったら・・・

給湯器からお湯も水も出なくなった場合には、給湯器の凍結の可能性があります。この場合は、

- 給湯器のリモコンをオフにしてください。 ※給湯器のコンセントは抜かないでください
- 気温の上昇によって自然に解凍するまでお待ちください。
- 給湯栓から水がでるようになったら、給湯器や配管から水漏れがないかを確認のうえ、ご使用ください。給湯器が凍結しても無理に解凍させようとせず、自然に溶けるのを待ってください。給湯器に熱湯をかけるなどと、急激な温度変化によって配管が破裂してしまう恐れがありますので、絶対に行わないでください。

お問合せ先

鳥取ガス株式会社

鳥取市五反田町6番地  0570-04-8811

鳥取ガス産業株式会社

鳥取市五反田町6番地  0570-04-8822